

博報堂生活総合研究所「お金に関する生活者意識調査」結果を発表

「キャッシュレス社会」に賛成49%：反対51% 賛否は真っ二つ。 男女で意見は正反対(男性は賛成、女性は反対が多数)。

全体：賛成49%≒反対51%

男性：賛成59%>反対41% 女性：賛成39%<反対62%

今、お金にまつわる環境は、電子マネーや仮想通貨といった新しいお金の誕生や、個人が直接取引できるサービスの登場などで急速に変化しています。しかし、こうした環境変化に生活者がどう向き合っているのかを把握したものは、あまり見当たらないように思います。

そこで、博報堂生活総合研究所は全国20～69歳の男女を対象に「お金に関する生活者意識調査」を実施しました。調査結果からは、一様ではない生活者の価値観や、変化の波に乗って自らの行動をも変えようとする生活者の姿がみえてきました。以下、ポイントをご紹介します。

「お金に関する生活者意識調査」のポイント

キャッシュレス社会への期待

賛否が半々。男女で意見は正反対(男性は賛成、女性は反対が多数)

- 紙幣や硬貨などの現金を使う必要がない「キャッシュレス社会」に将来「なった方がよい」という賛成派は48.6%、「ならない方がよい」という反対派は51.4%と、意見が真っ二つに分かれました。
- 性別でみると、男女で意見は正反対。男性は賛成派(58.7%)、女性は反対派(61.5%)が多数となっています。
- 賛成の理由では「現金を持たなくていい」「利便性が高い」「お得」、反対の理由では「浪費しそう」「お金の感覚が麻痺しそう」「お金のありがたみがなくなりそう」がトップ3を占めます。

お金の支払い方法の変化

生活者の意識では、最近2～3年で「現金」払いが3割減少

- 最近2～3年の支払い方法の変化について、「現金」払いが減っていると感じる人は3割(33.7%)。
- 逆に、増えているものとしては「クレジットカード」が最多で半数弱(43.7%)、次いで「電子マネー」が22.9%となりました。

会計系サービスの利用状況/意向

進む電子化。「ネットバンキング」は現在利用・今後意向とも4割

- 会計系サービスについて、現在利用しているものは「ネットバンキング」が41.8%で最も多く、「紙の家計簿」(20.9%)、「表計算ソフトでの家計簿」(18.8%)がこれに続いています。
- 今後利用したいものをもとめて、トップは「ネットバンキング」(38.1%)です。また、「ネットバンキング」「紙の家計簿」以外のデジタル活用型の会計系サービスは今後意向が現在利用を5ポイント以上も上回っています。今後もお金の電子化は進展していきそうです。

個人間取引系サービスの利用経験/意向

全サービスとも利用経験<利用意向。今後、伸長のきざし

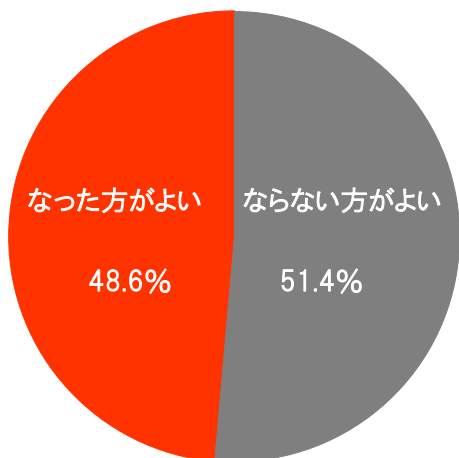
- 「個人間で所有物を売買するサービス」で利用経験(43.7%)より利用意向(58.1%)が大きく上回っています。
- 「空きスペースを貸し借りするサービス」「特技・スキルを売買するサービス」など、他の個人間取引系サービスについても、すべての利用意向が利用経験よりも高く、今後、徐々に利用が伸びていきそうです。

※本調査は「お金の未来」研究の一環です。本調査を含む各種研究でみえてきた、お金と幸せの未来像につきましては「みらい博 2018「進貨論～生活者通貨の誕生～」として、研究発表イベントや書籍などで発表してまいります。

- 紙幣や硬貨などの現金を使う必要がない「キャッシュレス社会」に将来「なった方がよい」という賛成派は48.6%、「ならない方がよい」という反対派は51.4%と、意見が真っ二つに分かれました。
- 性別でみると、男女で意見は正反対。男性は賛成派(58.7%)、女性は反対派(61.5%)が多数となっています。
- 賛成の理由では「現金を持たなくていい」「利便性が高い」「お得」、反対の理由では「浪費しそう」「お金の感覚が麻痺しそう」「お金のありがたみがなくなりそう」がトップ3を占めます。
- 性別では、男性で利便性の高さを支持する意見と犯罪を危惧する意見、女性でお得とやりとり・管理のしやすさを支持する意見と金銭感覚の揺らぎを危惧する意見が多い傾向がみられました。

Q 近い将来、紙幣や硬貨などの現金を使う必要がない「キャッシュレス社会」になるのではないかとわれています。あなたご自身のお気持ちは「キャッシュレス社会」に「なった方がよい」「ならない方がよい」のどちらに近いですか？(単一回答)

※±10pt以上の差があったものうち、スコアが高い方に色付け



	調査人数	なった方がよい	ならない方がよい	差
全体	3,600	48.6	51.4	-2.8
男性	1,803	58.7	41.3	17.4
女性	1,797	38.5	61.5	-23.0
男性20代	281	57.7	42.3	15.4
男性30代	340	58.5	41.5	17.0
男性40代	430	58.6	41.4	17.2
男性50代	356	59.0	41.0	18.0
男性60代	396	59.3	40.7	18.6
女性20代	272	36.8	63.2	-26.4
女性30代	333	35.4	64.6	-29.2
女性40代	422	36.7	63.3	-26.6
女性50代	357	42.0	58.0	-16.0
女性60代	413	40.9	59.1	-18.2

(人) (%) (pt)

キャッシュレス社会に「賛成」の理由 ※自由回答を集計したトップ5、%は賛成した人ベースで算出

賛成の理由	全体	男性	女性	男-女	理由の具体例
1位 現金を持たなくてよいから	14.7	14.9	14.3	0.6	・現金を持ちたくない。不潔だし、財布も重くなる(女性53歳・東京都) ・現金の出し入れで次の方を待たせる場合も多いので、持ち歩かない方が便利(女性63歳・茨城県)
2位 利便性が高いから	10.7	12.2	8.7	3.5	・口座から現金をおろしたり、送金に手間がかかるより、利便性が上がりそう(男性54歳・東京都) ・キャッシュレスは便利。でも、お金を手にしないのは少し淋しい気もする(女性54歳・青森県)
3位 お得だから	6.9	5.5	8.7	-3.2	・クレジットは使うだけでポイントが貯まるし、現金のように手数料を取られず、お得(女性38歳・長野県) ・ポイントが溜まり、銀行の利息よりよい(男性45歳・和歌山県)
4位 やりとりがスムーズだから	6.3	5.5	7.3	-1.8	・通販もクレジットカードがあれば、振込や代引の手間もなくなる(女性30歳・愛知県) ・レジの待ちの時間が減りそう(男性64歳・熊本県)
5位 管理しやすいから	5.5	4.6	6.7	-2.1	・いつ何にお金を使ったかが、インターネットやアプリで管理できれば楽だから(男性39歳・宮城県) ・使用履歴が電子化され、閲覧や見直しができる(女性51歳・大阪府)

キャッシュレス社会に「反対」の理由 ※自由回答を集計したトップ5、%は反対した人ベースで算出

反対の理由	全体	男性	女性	男-女	理由の具体例
1位 浪費しそうだから	10.9	7.9	13.3	-5.4	・使った感覚がない売買は湯水の如く金を使いそうで怖い(女性35歳・埼玉県) ・支払いの実感がなくなると、ためらいなく借金や浪費をする人が増えそう(男性26歳・京都府)
2位 お金の感覚が麻痺しそうだから	10.1	5.4	13.8	-8.4	・考えなしに買ってしまいそう。現金は減るのを実感でき、考えて買い物ができる(女性60歳・静岡県) ・いくら使ったかがわかりづらい。支払い可能限度から逸脱する可能性がある(男性34歳・東京都)
3位 お金のありがたみがなくなりそうだから	7.9	5.7	9.6	-3.9	・お金を稼ぐありがたみがわからなくなりそう(女性36歳・宮城県) ・お金の価値が軽いものになってきてしまいそう(男性37歳・香川県)
4位 現金は必要だから	6.0	8.6	3.9	4.7	・システムがダウンして混乱を招く事態になった時、やはり現金はあった方がよい(女性52歳・東京都) ・電腦世界の通貨は何らかの障害や天災が発生した際、使い物にならない(男性42歳・大阪府)
5位 犯罪が多発しそうだから	5.7	9.5	2.7	6.8	・暗証番号や個人情報流出して、犯罪が起きる可能性がある(男性27歳・東京都) ・システムの脆弱性などで不正が行われる心配もある(女性66歳・東京都)

(%) (pt)

- 最近2～3年の支払い方法の変化について、「現金」払いが減っていると感じる人は3割(33.7%)。
- 逆に、増えているものとしては「クレジットカード」が最多で半数弱(43.7%)、次いで「電子マネー」が22.9%となりました。

Q 次の支払い方法が占める割合は、最近2～3年で増えていますか、減っていますか。それぞれの支払い方法ごとにあてはまるものをお選びください。(各、単一回答)

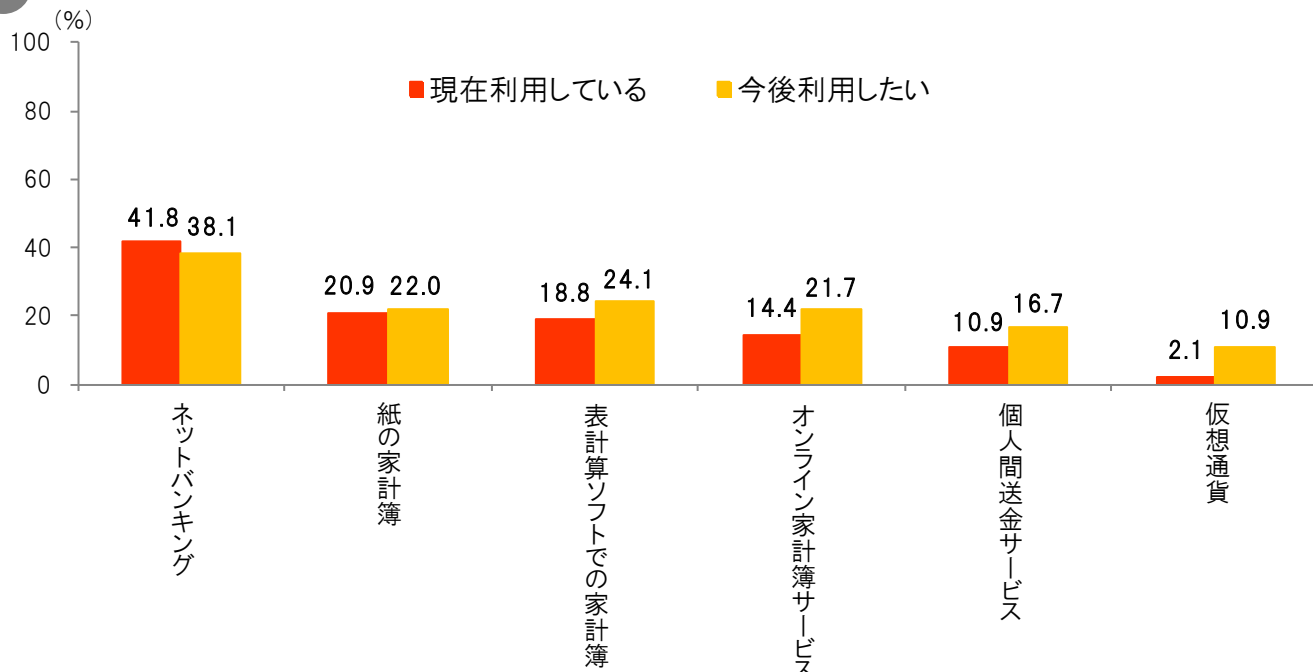
■ 増えている ■ 増えも減りもしていない ■ 減っている □ 使っていない



博報堂生活総合研究所「お金に関する生活者意識調査(2017年8月)」

- 会計系サービスについて、現在利用しているものは「ネットバンキング」が41.8%で最も多く、「紙の家計簿」(20.9%)、「表計算ソフトでの家計簿」(18.8%)がこれに続いています。
- 今後利用したいものをもても、トップは「ネットバンキング」(38.1%)です。また、「ネットバンキング」「紙の家計簿」以外のデジタル活用型の会計系サービスは今後意向が現在利用を5ポイント以上も上回っています。今後もお金の電子化は進展していきそうです。

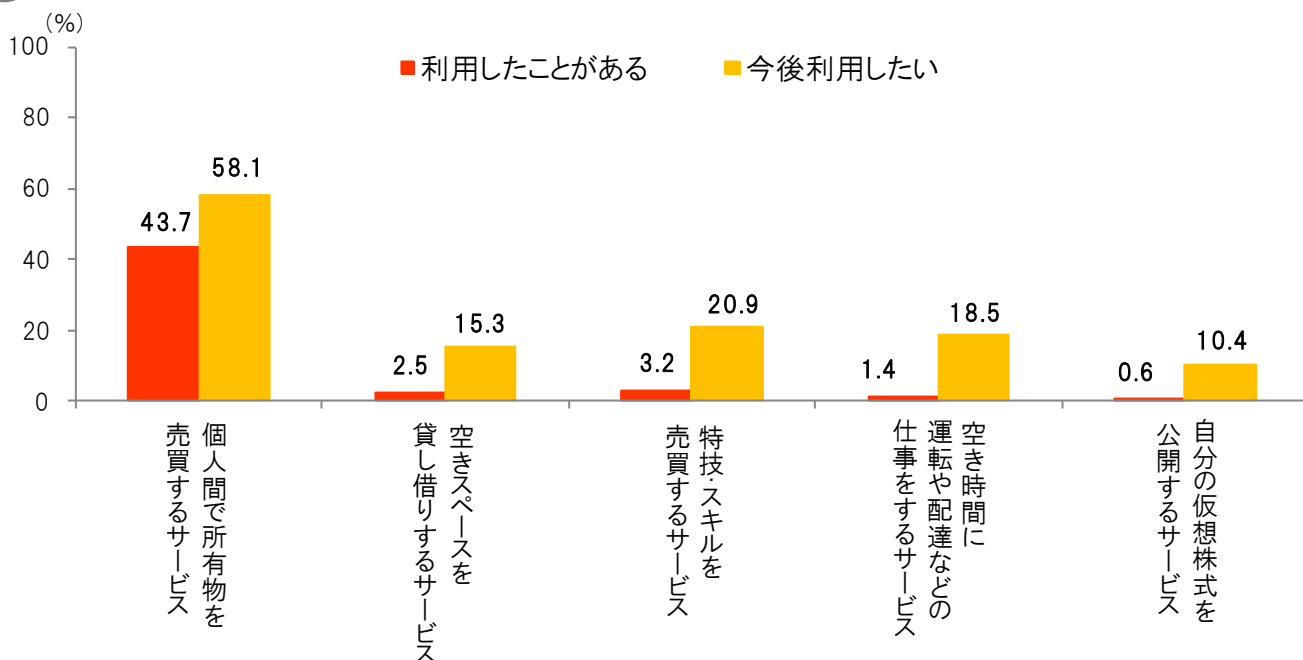
Q 次にあげるそれぞれについて、あなたが現在利用しているもの、今後利用したいものをすべてお選びください。(複数回答)



博報堂生活総合研究所「お金に関する生活者意識調査(2017年8月)」

- 「個人間で所有物を売買するサービス」で利用経験(43.7%)より利用意向(58.1%)が大きく上回っています。
- 「空きスペースを貸し借りするサービス」「特技・スキルを売買するサービス」など、他の個人間取引系サービスについても、すべての利用意向が利用経験よりも高く、今後、徐々に利用が伸びていきそうです。

Q 次にあげるインターネット上のサービスを、あなたは利用したことがありますか。また、今後利用したいと思いますか。(各、単一回答)



博報堂生活総合研究所「お金に関する生活者意識調査(2017年8月)」

お金に関する生活者意識調査

(2017年8月調査)

調査地域 全国
調査対象 20～69歳の男女 1,500人
調査手法 インターネット調査
調査期間 2017年8月25日(金)～8月28日(月)
企画分析 博報堂生活総合研究所
実査集計 株式会社 東京サーベイ・リサーチ

(2017年11月調査)

調査地域 全国
調査対象 20～69歳の男女 3,600人
調査手法 インターネット調査
調査期間 2017年11月16日(木)～11月20日(月)
企画分析 博報堂生活総合研究所
実査集計 株式会社 東京サーベイ・リサーチ